

父親役割への適応を促す看護援助に関する文献研究

岩 田 裕 子 (デューク大学看護学部博士課程)
森 恵 美 (千葉大学看護学部)

本研究の目的は、父親役割への適応を促す看護援助を明らかにすることであり、国内外の研究論文および専門書の内容を質的に分析することにより、父親役割への適応に関する看護援助を抽出した。医学中央雑誌、CINAHL、MEDLINEを利用したコンピューター検索により、1990年以降の文献を抽出し、最終的に和文献16、英語文献24、専門書9を分析対象とした。質的分析の結果、父親役割への適応を促す看護援助は、妊娠中に行う援助としては、1) アタッチメントの促進、2) 父親役割への準備、3) 夫婦間コミュニケーションの促進、4) 役割調整のための夫婦間の話し合い促進、5) 胎児・乳児についての情報提供の5つが抽出された。分娩時に行う援助は、父親になる男性へのサポートとしてまとめられ、妊婦だけでなく、父親になる男性にも焦点をおいた援助をすべきであるということが示された。出産後に行う援助としては、1) 育児相談・教育、2) 父親間での感情の共有、3) 夫婦間コミュニケーションの促進の3つが抽出された。また援助を行う時期に関係なく抽出された一般的原理は、1) 援助者の姿勢、2) 物理的環境の調整、3) 援助する際の工夫の3つであった。

本研究において明らかとなった父親役割への適応を促す看護援助は、移行期の父親にケアを提供する看護実践者にとって、援助の指針となるものである。また、抽出された看護援助の内容をさらに検討あるいは精練していくことは、日本文化を反映した新たな看護援助の指針を開発することにつながると考える。

KEY WORDS: father's role, parenthood, adjustment, nursing care

I. はじめに

共働き家庭の増加や核家族化といった社会的変化は、家庭内における親役割を見直す契機を与えることとなり、これまで殆ど母親が担ってきた育児に、父親も関わるべきという考え方が、日本でも一般的になりつつある。このことは、育児をとりまく社会的支援や父親となる人々の動向の変化からも、推察することができる。例えば、親になる準備教育としての母親学級は、両親学級や父親学級へと名称と対象・内容を変えてきた。また、妊婦健診に夫が付き添ってくることは珍しくなくなってきており、分娩時に夫が立ち会うことを許可する病産院や立会い分娩を希望する男性も増加してきている。父親は、子どもとの遊びだけでなく、沐浴やオムツ換え等の世話にも関わりはじめている。看護研究でも、周産期の父親を対象者として扱うものが増えてきており、父親が分娩や育児に関わる事の効果などは、徐々に明らかになってきていると言える^{1) 2)}。しかしながら、男性が父親になる過程を手助けするための、効果的な看護援助を明らかにしている看護研究は、日本にはまだないのが実状である。父親についての研究の歴史が浅い事を考慮す

れば、これは当然の事かもしれないが、現実には臨床の看護職者が何らかの形で父親を援助していると考えられるし、記述的レベルの研究論文の中には、臨床実践への提言を行っているものもある。したがって、現段階で望ましいと思われる看護援助を抽出することには、それなりの意味があると思われる。

本研究の研究問題は、「父親役割への適応を促す看護援助とはどのようなものか」である。なお、ここでいう父親役割とは、「父親としての価値観、態度、行動を含む文化的総体であり、父親と母親、および子どもを含む家族システム内のメンバーに対する責任を伴うもの」と定義し³⁾、父親役割への適応とは、「父親であるという状況における、その人と環境との相互作用の結果、その人と父親であるという状況が、調和のある満足すべき関係を保っていること」と定義する⁴⁾。本研究により抽出された看護援助の内容を、さらに検討あるいは精練することにより新たな看護援助の指針を開発し、さらに研究によってその効果を検証していくことで、父親役割への適応を促す効果的な看護援助を明らかにすることを、長期的な目的とする。

II. 方 法

ある特定の看護援助の効果を検証する方法としては、

実験研究や準実験研究⁵⁾、あるいはメタアナリシス⁶⁾等があるが、父親役割への適応を促す看護援助そのものが開発途上にあることを考慮し、看護援助の内容を、なるべく広く抽出できるような方法をとった。

1. データ収集方法

研究素材となるデータは、父親役割に関する研究論文と、父親役割に詳しいと考えられる専門職者（心理学者や社会学者など）が書いた専門書とした。関連する研究論文を抽出するためには、コンピューター検索を行った。和文献の検索には医学中央雑誌を用い、キーワードを「父親」「父性」として1990年より2002年まで検索した。英語文献に関してはCINAHL, MEDLINEを用い、キーワードを「father & role」「fatherhood」「paternity」として1990年より2002年まで検索した。抽出された文献に関して、論文題目と要約の内容を検討し、著者が関連文献と判断したものを収集した。具体的には、移行期の父親について明らかに記述されていて、父親になることや父親という役割への適応を支援している内容が含まれている可能性のあるものを、関連文献とした。また収集した文献の引用文献の利用も行った。最終的に分析の対象となったのは、和文献16、英語文献24であった。専門書に関しては、著者がこれまで収集、あるいは内容を検討してきた親役割関連書9冊とした。

2. 分析方法

収集した文献の全文を、著者が十分に理解するまで繰り返し読み、用語の定義に照らし合わせ、父親役割への適応または親役割に関する看護援助が含まれると思われる箇所（文節、部分、文章）を抽出した。具体的な抽出箇所は、以下の6つの内容が記述されたいずれかとした。

- 1) 介入研究（実験研究・準実験研究）の場合には、看護援助となる介入の内容。
- 2) 量的な相関研究・記述研究の中で、看護援助が1変数としてとりあげられている場合は、その内容。従属変数が独立変数かは問わない。
- 3) 量的な相関研究・記述研究の中で、看護援助が1変数としてとりあげられてはいないが、研究結果に基づいて、考察などの中で具体的な看護援助が提言されている場合は、その内容。ただし、研究結果に基づかないものは除外。
- 4) 質的記述的研究の中で抽出された看護援助の内容。
- 5) 質的記述的研究の結果として抽出されたわけではないが、研究結果に基づいて、考察などの中で具体的な看護援助が提言されている場合は、その内容。

6) 心理学者や社会学者などの専門職者が書いた研究論文以外の単行書などの場合は、その中で勧められている援助の内容。

抽出した文節は、意味内容の類似性によりさらに抽象度を上げて分類され、命名された。

3. 文献抽出に関する妥当性と限界

関連文献の収集に偏りがあると、結果的に関連する重要なデータを見逃してしまうことになり、現象の理解を制限してしまうことになる⁷⁾。したがって、本研究では文献抽出に関する妥当性を確保するため、なるべく多様な方法を用いてデータを収集し、かつデータ収集方法に関して詳しく記述するというを行った⁸⁾。しかしながら、時間的・経済的理由から修士論文や博士論文などの未発表論文は除外したこと、マニュアル検索を行わなかったこと、専門書の検索を行わなかったこと、関連文献であるという判断を著者1人で行ったことは、研究結果に限界を与えていることを考慮していただきたい。

Ⅲ. 結果

分析対象となった40文献のうち、2文献が介入研究、23文献が量的な相関研究・記述研究、15文献が質的研究と分類された。この中で、父親または親に対する看護援助が抽出されたのは18文献であった。専門図書に関しては、親役割関連書9冊のうち、3冊から看護援助が抽出された。

父親役割への適応を促す看護援助は、援助を行う時期別に、妊娠中の援助、分娩時の援助、出産後の援助の3つに分類する事ができた。また援助を行う時期に関係ない援助者の姿勢などに関しては、一般的原理としてまとめた（表）。

妊娠中に行う看護援助は、1) アタッチメントの促進、2) 父親役割への準備、3) 夫婦間コミュニケーションの促進、4) 役割調整のための夫婦間の話し合い促進、5) 胎児・乳児についての情報提供の5つに分類できた。父親の胎児に対するアタッチメントの促進方法としては、妊婦の腹部を触る、胎児の画像写真を見る、胎児心音をきく、胎児についての想像をする、胎児への手紙を書く等の具体的方法が抽出されたが、これらは全て母親に対する看護援助を応用させたものである。父親役割への準備の内容としては、父親役割についての学習・準備、父親になることに対する不安への対処、ピアサポート・感情の共有、母乳栄養への準備、出産への準備、新生活への準備があげられた。これら1) 2) の看護援助が父親単独を対象としたものであるのに対し、3) 4) は夫婦を対象とした看護援助であり、夫婦

表 父親役割への適応を促す看護援助

| 妊娠中の援助 | |
|--------------------|---|
| 1) アタッチメントの促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもイメージが高まるような事を行う⁹⁾ ・胎児について想像する：出生の日時、体重、性別、髪の色、髪の量、目の色、頭の形、誰似か等¹⁰⁾ ・妊婦の腹部を触る¹⁰⁾ ・胎児の画像写真をみる¹⁰⁾ ・胎児心音をきく¹⁰⁾ ・生まれてくる子どもに対して手紙を書く¹⁰⁾ |
| 2) 父親役割への準備 | <p>父親役割についての学習・準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助者は、父親に対して役割の変化、妻に対する経済的・身体的サポートを提供することへの関心、夫婦間で情緒的サポートを与えたり受け取ることを強調した内容の話をする¹¹⁾ ・妊娠や子育てについての本を読む¹¹⁾ ・父親役割・母親役割について想像する： ・援助者は父親に対して、非常に楽しそうに乳児を沐浴している両親のビデオ（6分間）を見せて、両親間で役割調整に関して話し合ってもらおう。リラックス音楽をかけながら行う。育児に関する両親相互の役割、乳児と一緒に楽しむ事、両親お互いが助け合う事などに関するディスカッションを行う¹²⁾ ・父親になった時の役割について考える。現在の自分の役割は？子どもが生まれたら変化する役割は？周りからの期待は？役割の変化についてどう思うか？配偶者はどう思うか？¹⁰⁾ ・様々な父親像について考える：知り合いの父親、テレビ・映画・本の登場人物としての父親に関して考える。好きなどころ、嫌いなどころは？自分だったらその状況でどうするか？父親として大切なのは？父親としてすべきでないことは？¹⁰⁾ ・父子相互作用を観察する：公園などに行って父子の様子を観察し考える。父親の育児で良かったところは？子どもの反応は？自分だったらその状況でどうするか？等¹⁰⁾ ・父親へのインタビューを行う：実際に父親である人にインタビューする。父親として一番好きなどころは？大変などころは？等¹⁰⁾ <p>父親になることに対する不安への対処</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助者は、父親役割に関する不安について、前もって父親と話し合っておく¹³⁾ ・援助者は父親に対して、妊娠中にアンビバレントな感情や不安、緊張の高まりなどを経験することはよくあることであるということを、前もって説明しておく¹⁴⁾ ・援助者は、父親になることに消極的で制約感の強い男性の心理状況を把握し、生まれてくる子どもへの不安や心配を軽減し親になる意識を少しでも高める事に焦点をおく。 <p>*「父親になる心理的過程（意識）」：「制約感」「人間的成長・分身感」「生まれてくる子どもの心配・不安」「父親になる実感・心の準備」「父親になる喜び」「父親になる自信」の6因子から構成される¹⁵⁾</p> <p>ピアサポート・感情の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産前教育クラスにおいて、男女別のグループディスカッションを行う。互いに知り合い、感情や関心事を分かち合い、ピアサポートを促進し孤独感と戦えるようにする。妊娠や出産、育児、セクシュアリティについての感情を話し合う¹¹⁾ <p>母乳栄養への準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母乳栄養の経験のある父親をmentorとして出産前教育クラスに登場させ、男性が経験するであろう感情は正常なもので、父親関係を長期間阻害するものではないということ話をもらう¹⁶⁾ ・援助者は、母乳栄養に対する父親の考えや期待、価値観、ゴールなどについて、父親と話し合い、それらを受け入れる¹⁶⁾ ・援助者は、空腹時の児のあやしかたやビン哺乳の仕方に関する説明を行う¹⁶⁾ <p>出産への準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法やリラクゼーションの練習を行う：父親のコピーングスキルを増やし、ストレスを軽減させる^{10) 11)} ・援助者は、分娩時に男性がとる役割は様々であることを説明する（コーチ、チームメイト、傍観者）¹⁷⁾ ・立会い分娩する際には、援助者は夫がとる役割について説明しておく¹⁸⁾ ・立会い分娩する場合には、援助者は前もってその時に経験するであろう男性の感情について話しておく¹⁹⁾ ・援助者は、父親が立会い分娩の経験のある男性との話し合いの機会を持つことをすすめる¹⁹⁾ ・援助者は父親に対して、分娩時に女性が経験する不快な状況について前もって説明しておく¹⁹⁾ ・援助者は、陣痛に対する女性の反応の変化・陣痛による疲労・硬膜外麻酔の影響などを男性に前もって説明することで、男性は女性の変化に対して心の準備ができる。このことにより男性の不安やフラストレーション、無力感を減らすことができる²⁰⁾ <p>新生活への準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭における生活資源（お金、時間、エネルギー、サポート）と価値観（男女役割、親役割）について検討する²¹⁾ |
| 3) 夫婦間のコミュニケーション促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・出産前教育クラスでは、夫婦間のコミュニケーションに重点をおく¹³⁾ ・夫婦間で感情を共有する²²⁾ |

| |
|---|
| <p>4) 役割調整のための夫婦間の話し合い促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫婦で役割について話し合う¹¹⁾ ・父親役割・母親役割について想像する：非常に楽しそうに乳児を沐浴してる両親のビデオ（6分間）を見せて、両親間で役割調整に関して話し合ってもらおう。リラックス音楽をかけながら行う。育児に関する両親相互の役割、乳児と一緒に楽しむ事、両親お互いが助け合う事などに関するディスカッションを行う¹²⁾ <p>5) 胎児・乳児についての情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の相互作用能力についての情報提供：乳児の相互作用と学習能力に関して、"Amazing Newborn"というフィルムを見せて説明する。登場する乳児は生後7日以内。乳児の睡眠と覚醒の状態、注意力、周りから聞こえる声や顔への反応、視覚的な好み、声に対するリズムカルな運動反応などの内容が見せられる。乳児の驚きや複雑性、相互作用の能力についての話し合いがなされる。親として「こうすべきである」といった内容のものは一切含まない¹²⁾ ・生後3ヶ月間の乳児の未熟性についての話題提供。肝機能の未熟性が頻回の授乳を必要とさせること、神経学的な未熟性が乳児の睡眠・覚醒パターンと関与していること、消化機能の未熟性が母乳や人工ミルクでの栄養を必要とさせること、刺激を避ける事で乳児を苛立たせずにすむことなどについて説明される。3ヶ月以降の乳児の変化が話され、最初の3ヶ月の育児の大変さは一生続くものではなく、この限られた貴重な3ヶ月間を乳児と一緒に楽しむという肯定的な見方ができるように話される¹²⁾ |
| <p>分娩時の援助</p> |
| <p>父親になる男性へのサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助者は、母親だけでなく男性にも焦点をおいたケアプランを計画すべきである¹⁹⁾ ・援助者は、立会い分娩時の男性の関わり度、ストレスレベル、ニーズを頻りにアセスメントする¹⁹⁾ ・分娩ナースは男性にとっての役割モデルとして、女性をケアする¹⁹⁾ ・援助者は、個々の男性のニーズを把握した上で（男性の疲労度や空腹度など）女性のサポートの仕方をアドバイスする¹⁸⁾ ・援助者は、陣痛に対する女性の反応の変化・陣痛による疲労・硬膜外麻酔の影響などを立会いの夫に説明する²⁰⁾ |
| <p>出産後の援助</p> |
| <p>1) 育児相談・教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助者は、育児について父親にも教育する。児のキューなどについても話す²¹⁾ <p>2) 父親間での感情の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共働きをしている父親同士話し合う²¹⁾ <p>3) 夫婦間のコミュニケーション促進²²⁾</p> |
| <p>援助の一般的原理</p> |
| <p>1) 援助者の姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の出産・育児への関わり度合いは様々であるので、援助者は個々の関わりレベルを尊重してサポートすべきである²³⁾ ・女性だけでなく、父親になる男性も援助の対象者としてみなす¹⁹⁾ ・理想の父親像があるわけではなく、様々な父親としてのあり方がある（傍観者、サポーター、パートナー、家長など）ということを認識した上で援助する²⁴⁾ ・ナースは父親になる男性の心理的過程を十分理解した上で教育する¹⁵⁾ <p>2) 物理的環境の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父親が子育てに関わる物理的条件を整える²⁵⁾ <p>3) 援助する際の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育クラスへの参加者は限られるので、広く広告するために新聞やラジオ、職場やヘルスクラブでのパンフレットなどを利用するとよい¹⁶⁾ |

間でのコミュニケーションを促進し、感情の共有や役割調整の話し合いをもたらすものであった。また、胎児・乳児についての情報提供では、乳児の驚くべき相互作用能力や未熟性についての内容を強調していた。

分娩時の看護援助は、父親になる男性へのサポートとしてまとめることができ、妊婦だけでなく父親になる男性にも焦点をおいた看護援助が強調されていた。援助者は、個々の男性の分娩への関わり度やストレスレベル、ニーズについてアセスメントし、また援助者自身が男性にとっての役割モデルとして存在すべきであるという事が述べられていた。

出産後の看護援助は、1) 育児相談・教育、2) 父親

間での感情の共有、3) 夫婦間コミュニケーションの促進の3つに分類することができた。

援助の一般的原理としては、1) 援助者の姿勢、2) 物理的環境の調整、3) 援助する際の工夫の3つが抽出された。援助者の姿勢としては、女性だけでなく父親になる男性も援助の対象者としてみなすこと、理想の父親像が存在するわけではなく様々な父親としてのあり方があるということを検討すること、父親になる男性の心理的過程を十分理解しておくこと等があげられた。

表に示した以外の系統的な援助として、1) Diemerの出産前教育クラス¹¹⁾、2) Bryanの出産前教育クラス¹²⁾、3) Promoting First Relationships²⁶⁾、4) 親業訓

練プログラム²⁷⁾、5) 父子手帖²⁸⁾の5つがあげられた。1) 2) のクラスに含まれる内容の一部分は表でもとりあげているが、いずれもアメリカで開発された父親に焦点をおいた出産前教育クラスであり、介入研究によりその効果が検証されているものである。Promoting First Relationshipsはアメリカのワシントン大学で開発されたもので、早期の(子どもの出生から3歳まで)親子間の良好な相互作用を促進することを目的としたプログラムであり、面接技術を含む援助内容となっている。アメリカで開発されたという点では親業訓練プログラムも同様であるが、このプログラムは、日本でも親業訓練協会が主体となって教育を行っている。親子の相互作用に注目した内容で、子どもに対する親の関わり方として、「能動的な聞き方」「私メッセジ」「勝負なし法」の3つを強調している。父子手帖は、援助プログラムというよりは一般者向けの育児本であるが、父親に焦点をおいた内容となっている。

IV. 考 察

父親役割への適応を促進する看護援助として抽出された内容は、意外にも多岐に渡るものとなったが、介入研究によりその援助の効果が検証されているものは2研究のみで^{11) 12)}、いずれもアメリカ人を対象とした研究であった。これは、看護研究そのものが日本よりもアメリカで先進していることを考えると、当然の事かもしれない。しかし、文化的な文脈が父親役割に与える影響を考えるならば、日本人の父親を対象として、表に示したような看護援助を安易に適用すべきではないだろう。その一方で、日本人を対象とした研究から父親への援助を抽出することは難しく、介入研究が皆無であり、臨床実践への提言として述べられているとしても非常に抽象的で、実践に応用できるレベルの内容ではなかったことも事実である。したがって、日本の文化を反映した看護援助を開発するためには、表に示した看護援助を参考にしつつも、日本人の看護実践者や父親の意見をとり入れていくことが必要となるだろう。

援助を行う時期に関しては、妊娠前のものも抽出予定であったが、今回の分析では抽出できず、結果的に妊娠中の援助に集中することとなった。その理由の1つとして、本研究では関連文献であるという判断を、著者1人で行ったということがあげられるかもしれない。文献収集の段階で、知らず知らずのうちに、妊娠前の看護援助が含まれる論文が除外されていた可能性は否めない。ただ、実際に看護職者が親となる女性(妊婦)や男性に関わりやすい時期が妊娠中であるということを考えると、

多くの看護援助がこの時期に存在するという事は、望ましいと言えるのかもしれない。しかし他方で、育児が現実に進行しているのが出産後であるという事実を考えると、出産後の援助にこそ力を入れるべきと考えることもできる。妊娠中に提供された教育や練習した対処方法は、新生活への準備として必要であろうが、それらは決して現実の育児生活と100%適合するものではない。「本当にこれでいいのだろうか」と不安を抱え、「こんなはずではなかった」と期待通りに物事が運ばない状況に悩む親は多いのではないだろうか。このような意味においては、分析の結果として抽出された出産後の「育児相談・教育」は、妥当な看護援助といえるのかもしれないが、全体としての出産後の援助に関しては、より一層の充実が望まれるところである。「育児相談・教育」という看護援助は、新生児訪問指導や乳幼児健康診査という形で公的サービスとしても提供されているが、問題がないわけではない。サービスを受ける側の親がどれだけ本音をいえるかという問題になると、その有効性に疑問を投げかける者もいるだろう。サービス提供の頻度の少なさと、父親との接触のしにくさも別の問題としてあげられよう。民間の電話相談や育児サークル等を利用した「育児相談・教育」は、問題意識を持った父親には有効であろうが、そうでない場合には殆ど効果がないといえる。育児不安や虐待、あるいは家庭内不和などのような問題が発生する前に、予防的に介入する事が重要なのであろうが、そのような援助として利用可能なものに、Promoting First Relationships²⁶⁾のプログラムがあげられた。このプログラムでは、良好な養育者-子ども関係を築き、育児を楽しめるものにするということをねらいとしており、援助者が乳幼児の養育者とじっくり関わる中で、養育者の育児に対する自信と能力を増加させるための方法が教育される。多少荒っぽい言い方をすれば、理想的な育児をしていなくとも、とにかく親を褒めることで「育児は楽しいもの」と思わせ、自信を持って育児することで、良好な親子関係が築けるといのである。どのようにこのサービスを提供するかという問題は残るが、少なくとも援助の内容そのものは十分に参考にできると思われる。

今回の分析結果の中で注目すべき点として、2者間の関係性、特に親子関係と夫婦関係に焦点をおき、健全な関係性を築き、維持できるような援助が抽出されたということがあげられる。夫婦間で感情を共有したり²²⁾、それぞれの親役割について話し合うこと^{11) 12)}は、お互いの性役割・親役割に関する考えについての理解を促し、また役割負担感を分散させることにもつながると考え

られる。親役割を獲得し適応する過程においては、配偶者からのサポートが重要となるため²⁹⁾、夫婦間のコミュニケーションの促進に重点をおいた援助が効果的となるであろう。また、良好な親子関係を築き促進することが重要であるということはいままでのない。しかし日本の看護において、これらは決して重視されてきた部分ではないともいえる。おそらくその内容から考えて、看護よりもむしろ心理学の分野において主に専門的に扱われてきた内容であったためではないかと思われる。心理的に複雑で難しい問題を抱えた家族に臨床心理士が関わることは、重要かつ尤もなことであろうが、表面上なら問題を抱えていないようにみえる家族に対しては、接触の機会が非常に少ないのではないだろうか。その点、看護職者は健康な家族に直接接する機会が最も得られやすい立場にいると考えられ、このことはすなわち予防的な介入援助を容易に提供できることをも意味する。したがって、従来のように、どのような内容のものを教育するかという内容重視ではなく、関係性重視の看護援助を積極的に考えていくという方向に進んでもいいのではないだろうか。

V. 結語

父親になる過程における男性を対象とした看護研究が増加しているとはいってもまだその数は少なく、したがって今回の分析では、父親役割への適応を促す効果的な看護援助を抽出することはできなかった。しかし父親役割への適応を促すと期待される看護援助の内容は明らかとなったと考えられる。日本人を対象とした引用文献が少ないということを考慮し、今後新たに父親に対する看護援助を開発する場合には、本研究の結果を参考にしつつも、日本の文化を反映させたものになるよう工夫する必要があるだろう。

引用文献

- 1) 千賀悠子, 堀口貞夫, 水野清子, 望月武子, 曾根秀子, 佐藤禮子, 中野恵美子: 夫立会い分娩の経験別に見た育児への関わりについて(3), 日本総合愛育研究所紀要, 27: 63-73, 1991.
- 2) 尾形和男: 父親についての研究(IV)-共働き家庭における母親の育児に対する父親の協力と子どもの精神発達, 国際学院埼玉短期大学研究紀要, 14: 23-32, 1993.
- 3) Iwata, H.: A concept analysis of the role of fatherhood: A Japanese perspective, Journal of Transcultural Nursing, 14(4): 297-304, 2003.

- 4) 岩田裕子: 父親についての文献研究, 筑波大学医療技術短期大学部研究報告, 19: 9-20, 1998.
- 5) Melnyk, B. M., Feinstein, N. F., & Fairbanks, E.: Effectiveness of informational/behavioral interventions with parents of low birth weight (LBW) premature infants: An evidence base to guide clinical practice, Pediatric Nursing, 28(5): 511-517, 2002.
- 6) Polit, D. F., & Hungler, B. P.: Nursing research: Principles and methods (6th ed.), Lippincott, 1995.
- 7) Jensen, L. A., & Allen, M. N.: Meta-synthesis of qualitative findings, Qualitative Health Research, 6(4): 553-560, 1996.
- 8) Cooper, H. M.: Integrating research: A guide for literature reviews (2nd ed.), SAGE, 1989.
- 9) 久坂ヤス子, 澤田忠幸, 豊田ゆかり, 遠山尚子, 原美香子, 池田澄子: 親となる意識の形成, 愛媛県立医療技術短期大学紀要, 12: 37-43, 1999.
- 10) Solchany, J. E.: Promoting maternal mental health during pregnancy: Theory, practice & intervention, NCAST Publications, 2001.
- 11) Diemer, G. A.: Expectant fathers: Influence of perinatal education on stress, coping, and spousal relations, Research in Nursing and Health, 20: 281-293, 1997.
- 12) Bryan, A. A.: Enhancing parent-child interaction with a prenatal couple intervention, The American Journal of Maternal/Child Nursing, 25(3): 139-145, 2000.
- 13) Buist, A., Morse, C. A., & Durkin, S.: Men's adjustment to fatherhood: Implications for obstetric health care, Journal of Obstetric, Gynecologic, and Neonatal Nursing, 32(2): 172-180, 2002.
- 14) Donovan, J.: The process of analysis during a grounded theory study of men during their partners' pregnancies, Journal of Advanced Nursing, 21: 708-715, 1995.
- 15) 小野寺敦子, 青木紀久代, 小山真弓: 父親になる意識の形成過程, 発達心理学研究, 9(2): 121-130, 1998.
- 16) Gamble, D., & Morse, J. M.: Fathers of breastfed infants: Postponing and types of involvement, Journal of Obstetric, Gynecologic, and Neonatal Nursing, 22(4): 358-365, 1992.
- 17) Chapman, L. L.: Expectant fathers' roles during labor and birth, Journal of Obstetric, Gynecologic, and Neonatal Nursing, 21(2): 114-120, 1991.
- 18) Chandler, S., & Field, P. A.: Becoming a father: First-time fathers' experience of labor and delivery, Journal of

- Nurse-Midwifery, 42(1) : 17 - 24, 1997.
- 19) Nichols, M. R.: Paternal perspectives of the childbirth experience, *Maternal-Child Nursing Journal*, 21 (3) : 99 - 108, 1993.
 - 20) Chapman, L. L.: Expectant fathers and labor epidurals, *The American Journal of Maternal/Child Nursing*, 25 (3) : 133 - 138, 2000.
 - 21) Hall, W.: The experience of fathers in dual-earner families following the births of their first infants, *Journal of Advanced Nursing*, 16 : 423 - 430, 1991.
 - 22) Jordan, P. L.: Laboring for relevance: Expectant and new fatherhood, *Nursing Research*, 39 (1) : 11 - 16, 1990.
 - 23) May, K. A.: Three phases of father involvement in pregnancy, *Nursing Research*, 31 (6) : 337 - 342, 1982.
 - 24) Kaila-Behm, A., & Vehvilainen-Julkune, K.: Ways of being a father: How first-time fathers and public health nurses perceive men as fathers, *International Journal of Nursing Studies*, 37 : 199 - 205, 2000.
 - 25) 北村愛子, 常秋美作: 父親の育児参加と保育行動, *日本看護学会論文集29回小児看護* : 55 - 57, 1998.
 - 26) Kelly, J. F., Zuckerman, T. G., Sandoval, D., & Buehlman, K.: Promoting first relationships: A curriculum for service providers to help parents and other caregivers meet young children's social and emotional needs, NCAST-AVENUEW Publications, 2003.
 - 27) 田村勝夫編: 親業, 新版, サイマル出版会, 1970.
 - 28) 汐見稔幸, 長坂典子, 山崎喜比古: 父子手帖, 大月書店, 1994.
 - 29) 岩田裕子, 森恵美, 前原澄子: 父親役割への適応における父親のストレスとその関連要因, *日本看護科学会誌*, 18 (3) : 21 - 36, 1998.

PROMOTING MEN'S ADJUSTMENT TO FATHERHOOD:
REVIEW OF NURSING CARE

Hiroko Iwata *, Emi Mori **

* Graduate student at School of Nursing, Duquesne University, USA

** School of Nursing, Chiba University

KEY WORDS:

father's role, parenthood, adjustment, nursing care

The purpose of this study was to clarify nursing care that would promote men's adjustment to fatherhood. Literature search was conducted to retrieve relevant articles written either in Japanese or English. Igakuchouasshi, CINAHL, and MEDLINE were searched since 1990. The results of 16 Japanese articles, 24 English articles, and 9 books were analyzed focusing on their content to extract nursing care that would promote men's adjustment to fatherhood. The analysis resulted in various nursing care that could be provided during pregnancy, labor, and after birth. Nursing care during pregnancy were: 1) promoting the expectant father's attachment, 2) preparing for the father's role, 3) promoting marital communication, 4) promoting marital communication for the adjustment of parental roles between the couple, and 5) providing necessary information about fetus and infant. Nursing care during labor could be categorized as providing support to the expectant/new father that emphasized men as clients. Nursing care after birth were: 1) consultation/education about parenting, 2) sharing feelings among fathers, and 3) promoting marital communication. The following three basic principles were also extracted: 1) attitudes of care providers, 2) arrangement of physical environments, and 3) consideration of care providers.

The result could be a knowledge base to develop new nursing interventions that are sensitive to the Japanese culture and effective in promoting men's adjustment to fatherhood.